



いなほ

稲積神社社報
創刊号



うきをのみ かぞえてなにか
なげくらん 嬉しと思へは
うれしかる世を”



稲積神社
宮司 根津成雄

初代宮司の和歌です。私が当社の宮司に就任したのは、昭和四十年五月、正ノ木大祭の時でした。神社は戦災にあり、昭和三十年に拜殿を建て、屋根瓦は完成しておらず、廃墟とおなじようでした。祭典の前夜祭を斎行し、社務所に泊ったのですが、床の間に上を向いてみると、屋根の透き間から星が見えるといった状態でした。また、拜殿・社務所共雨が降ると、手のつけどころもないような有様で、心の中は何ともいえないような心境でした。初代宮司の和歌が力となり、嘆くことでなく、楽しい心で復興すること、この甲斐の国で千年以上の伝統ある社と、正ノ木稲荷の徳を世に広めることが、私の使命と思えました。

誰もが厳しい人生の試練に直面したときには「裸になって出直す」「生れ変わって出直す」あるいは「死ぬ気でやればできないことはない」など、さまざまな言葉で自らを励まし、再出発しようとしません。これは、今までの自分を捨てて、新しい生命を甦らせ、活動をj得て、人生をもう一度やり直すことです。神も、人も、自然も、あらゆるものが毎年新しく絶えざる甦りによって、その生命力は永遠に維持されます。神祭り、年中行事、人生儀礼、二十年ごとに繰り返される伊勢神宮の遷宮も永遠の生命を維持するための甦りの祭です。「甦りの思想」は自然を大切に、畏怖して生きてきた私たちの祖先からのもので、草木が古い葉を落とし新しい芽を吹くという自然の摂理、あるいはリズムを感じて誕生させた、日本人のすばらしい生命観であり、哲学であります。初代宮司をはじめ、代々の宮司がみな「神と共に甦り」古代さながらの神事を旨としてきたのjでしょう。

神を敬い拝し、清明心からなる感謝と報恩、誓明を捧げ奉るお勤めを、脈々と流れ受け継いでこられた歴代宮司の御恩に報い得るよう、私も小さな願いをかけ、戦災にあった御社も、今は生れ甦りました。稲積の神を信じ、共に歩んでこられた総代様、世話人様、崇敬者の方々の御力を感謝いたしております。

ここに、教化活動の一環といたしまして、社報を出し、神社の歩み、生活の指針となりますよう。また、一読願うことにより、社報がお守りと成り、御守護、恩頼（ゴリヤク）を授けられますことを確信し、稲積の神の生成発展、崇敬社皆様方の心の寄り合う神社として、神意奉行に精いっぱい頑張る所存でおります。



神社総代として

大澤 伊三郎

神社のご例祭日に当たってよく見受けられる職にあるその文字は、「神は人の敬によりて威を増し、人は神の徳によりて運を添う」という言葉がある。これは、北条三代將軍泰時が貞永元年（一二三二年）編纂された、鎌倉幕府の基本法典（別名貞永式目ともいう）で全五十一ヶ条からなり、第一条に「神社を修理し、「祭祀を専らにす可きこと」とあり、続いて、右の文面が続いて居り、神道の立場での神と人との密接な関係が述べられて居るのである。

神社を守り、祭りを盛んにし、ご社前殿賑を来らしめる事で神の威光を高らしめ、また私達が大きな神の恵みをこうむる事となる。

現代に至るまで、私達の祖先が、いかに神を崇め、大切にしながら、窮知せられるのである。全国八万余の神社は、神社本庁に大部分は所属している。よって、宗教法人の適用を受ける。土地や、建物等を神社所属とし神社本来の

活動の基盤を強固にするとともに公共性への信頼に応えんとするものである。従って、その運用管理等に当たって誤りなど断じて許されるべきものではない。よって、神社にたずさわる者の責任は重大である。全国神社総代会は、「神社役員、総代必携」を出し、総代役員なる者の心得を示し、誤りのなからん事を期したのである。

神社本庁は承知の通り、昭和二十年、未曾有の変革に遭い、従来の皇典講究所、大日本神社会、神宮奉斎会の関係者は、その対応を議し、神社関係者の総意によりて、全国神社を結集する神社本庁が設立されたのである。神宮を本宗と仰ぎ、神道本来の伝統を奉護する事となったのである。

もちろん、神社本庁は、全国神社の包括法人として、庁規を中心し運営されるに至ったのである。本庁は、神社界の憲法ともいべき、「神社本庁憲章」を制定し、昭和五十五年七月一日から施行したの

である。我々総代として、規定をここに掲げて参考に処す。全十九条からなり総代に関するものは第十三条より第十五条までである。

第十三条
「神社総代は、神社の・祭祀・信仰・伝統の保持、振興について宮司に協力する」

第十四条「神社の氏子区域は、神社ごとに慣習的に定められた区域を以てし、神社相互に尊重しなければならない。」

第十五条「氏子の区域に居住する者を以て傳統的に氏子とし、その他の信奉者を崇敬者とする。」

氏子・崇敬者は、神社護持の基盤であり、斯道発展の母体である

神社の護持について義務を負う信者を慣例により当該神社の氏子、または崇敬者にするという者なり。本憲章の解説は神社本庁より出版せられて居るので熟読してほしい。

以上、大略を述べたのであるが、今や時局は極めて重大であり、神社関係者はその本文を皇国の因由を顧みて誤らざらん行動をとることを願うものである。

稲積神社崇敬団体紹介

当神社には、大神様を崇敬し、自己の向上をめざしつつ、神社の護持発展に寄与していただいている会がいくつもあります。それぞれが、県内でも中心的役割を担い、県内神社界において他社にない唯一の会も活発に活動されています。各会のごこれまでの経過・活動内容等を紹介させていただきます。

甲府伊勢講 千社参りの旅

講元 丹沢正臣

昭和四十年に神社庁甲府支部長山本政雄先生の折、伊勢神宮参拝の第一回団体募集を臨時列車で、車中一泊、旅館一泊の二泊三日の旅に参加した折を期に稲積神社でも根津成雄宮司を先達で故野沢正太郎様が講元に、その他数名が世話人というスタッフで始めました。私もまだ若かりし頃でしたがこの世話人にお誘いをいただき、ふだんは神棚に手を合わせるのも御無沙汰な私も、年に一度ぐらいいは神様をお参りするのにも良いのではと、参加させていただきました。毎年伊勢へ伊勢へと、観光をかね行つて居りました。のちに宮司や講元の案で、日本全国の神社仏閣を参拝す

る旅を行なつたらと、千社参りの旅と名うって、早いもので三十年という長い間、多ぜいの方々の御参加をいただき続けております。初代講元の野沢様が亡くなり、その後を私にと、講演などという重責を受けさせて頂き、前講



元の意思を継ぎ千社詣の旅を南は沖縄、北は北海道と、参拝の旅が毎年続いております。

これからも、御参加いただく皆様に喜ばれる様な良い旅を計画して行きたいと思っておりますので、稲積神社甲府伊勢講に御参加の程をお願い申し上げます。

崇敬青年会紹介

会長 樋川 久

崇敬青年会の始まりは、十五年前に、神社祓宜根津泰昇氏、顧問藤沢平司氏、山梨県氏子青年会会長佐藤久良氏らを中心として、まずソフトボール部を作り、活動を始めました。会員も少しずつ増え活動も年々盛んになり充実してまいりました。現在会員は世話人十六名を中心に七十名を越すまでになりました。世話人は毎月定例会に於いて行事の打合せ、連絡等を行い円滑な会の運営を計っています。

主な活動は正の木大祭での舞台作り、御輿渡御、カラオケ大会、早朝の境内清掃などの奉仕活動を始め、スキーシーズンには会員はもとより広く一般の方々にも参加頂き好評を得ております、スキーツアー。七月に開催される氏子青年会全国大会への参加、十二月には神社境内清掃奉仕又、神社

関係者合同忘年会を主幹し運営しております。

又、県下の氏子青年会で組織される山梨県氏子青年会への協力等活動も多岐に渡ってまいりました。

私達青年会は、これからも若いエネルギーをもって活発に活動して行きますので皆様方の御指導を宜しく御願いたします。

雅楽会の今昔

雅楽会 久礼昭義

五月の稲積神社大祭の行事の一環として社報を発行すると云うことですが誠に喜ばしい限りで御座居ます。此の記念すべき機会に私達雅楽会の横顔を紹介致します。現在の会員は笙四人箏四人篳篥五人計十三名で構成されて居ります。思い起しますと昭和六十年四月に第一回目の練習会を開きました。雅楽には一般の音楽のようなオタマジャクシのある楽譜はありません。唱歌で曲を憶えます。竜笛ならトローロ・オルロ・ターアロラ、と歌います。それをマスターして楽器を吹くのです。まるで幼稚園の生徒のようでした。色々と苦勞を重ね

ましたが、あれからもう十年目を迎えました。今でも週の水曜日には皆で集まって和やかな中にも真剣に練習に励んでいます。現在の奉仕活動を説明致しますと、アビオ都留・紫玉苑・毘仙等の神前結婚式や神葬祭、稀ですが、規模の大きな建築工事の地鎮祭等にも活躍して居ります。稲積神社の益々の発展を祈念致しますとともに、私達雅楽会も切磋琢磨する所存で御座居ます。よろしく御支援の程お願い申し上げます。

ソフトボール部

監督 白倉 隆

稲積神社ソフトボール部は結成して十七年になります。神社を中心にして若い人等が集まり親睦を計る事を目的に発足しました。

発足当時は試合そのものよりも試合後の反省会での懇親を楽しみに活動していました。その後、年々部員も充実して現在では「甲府市ソフトボール協会」の強豪薙めくB級で活躍するまでになりました。現在部員は19歳から45歳と年齢層も広く、職業も多種多様ですが、チームワーク、

団結力は最高です。これも偏に稲積神社のユニホームを着ている御陰だと感謝しております。

年間の主な活動は、元旦に部員全員での必勝祈願に始まり春の甲府市大会、四月からは我がソフト部が中心となりチームを募り結成したりリーグ八友会リーグが始まります。十数年つづく歴史のあるリーグで甲府市登録のA級、B級を中心に、14チームが年間を通してレベルの高い戦いをしております。その中で我がチームは昨年2回目の優勝を勝ちとる事ができました。

四月、五月は神社の大祭である正の木祭の準備や片付けの奉仕、又現在では勇壮な御輿に復活した御輿渡御も当初



はソフト部員が奉仕しておりました。そして夏には家族参加のレクリエーション、秋の甲府市大会、十二月、神社境内清掃落葉拾いを奉仕し、清しい気持ちで一年の感謝をこめ参拝し、神社関係者合同忘年会で締め括ります。

このような活動を通じて感謝と奉仕の心を養い部員相互の親睦、研鑽に励んでいます。

稲積睦会

会長 清水 久

毎年五月三日の例大祭神輿渡御が、皆様方の御協力により行えますことを、この場を借りて御礼申し上げます。

昭和五十九年十月に稲積神社の御神輿を担ぎたい思いで十二名の仲間が集まり、稲積睦という神輿を担ぐ会を結成しました。

私共昭和三十年頃の生まれの者は、何を始めるにしてもまずファッションから、という傾向があります。私共は、それを証明する者の集まりであったのです。そして、神社関係の皆様方に稲積睦を認知していただく前に、東京浅草へ行き、半纏、パッチ、シャツなどを注文で作ってしまっ

たのです。

現在、稲積睦会員は四十名です。私共の目的は、五月三日の正の木祭で神輿渡御を盛大に盛り上げる事です。その為の活動として今年は三月に北方領土返還祈願神輿大会「東京」、四月に穴切神社春季大祭、六月に甲斐奈神社例大祭、七月に市川大門祇園祭、八月に市川大門町神明の花火大会、フェスタ小瀬、湯村ふるさと祭り、石和温泉祭り二十日祭、九月に竜王町古村ふるさと祭り、若松町一実神社例大祭、十月に甲府大好き祭り、十一月に甲府えびす講祭り等、応援参加が決定しております。今年五月三日の例大祭神輿渡御には、これらの祭りを運営する団体の方々の応援参加二百名ほど見込まれます。また、御近所の皆様が気軽に参加出来るように活動したいと思っております。

私共陸の目標は、山梨の神輿といったら正の木さん、正の木さんといったら神輿と言われるような歴史が作れたらと思っています。今後共、御指導のほどよろしくお願い致します。

御祈禱のご案内

当神社の御祭神は、御承知のように、宇迦之御魂大神、大宮能売大神の二柱の大神様をお祀りしております。

通称正の木さんと呼ばれる大神様は数多くの御神徳をお持ちの神様で殊に開運、商売繁昌の御神徳を願って多くの御祈禱の方々がおられます。

どなたでもお受けになれますのでお祓をお受けになり大御様の御守護を頂きよりよい日々をお過ごしになれますよう御案内致します。

御祈禱は、社務所にて受付用紙に願事、住所、氏名を記入していただき昇殿してお祓

をお受けいただきます。

願事の主なものは、商売繁昌、家内安全、厄除削除（男性25歳、42歳、女性19歳、33歳）、安産、学業成就、合格進学祈願、病氣平癒、交通安全、車清祓、方位除、初宮詣など御希望の御祈禱がお受けになれます。

又、建物を新築したり、土木工事などをするにあたってその土地の神様をお招きして土地の平安と工事の安全を祈る地鎮祭を始め、上棟祭、竣工祭、開店開業、清祓、家に移り住む前に行う家堅などの祭事があります。詳しくは社務所に御相談下さい。

祈願提灯奉納のすすめ

古来より清浄なる火に神宿ると言われております。

この古事にちなみ、当社では、ちようちんに家内安全、商売繁昌の祈願を書き入れ御神前に掲げ一年の御繁栄、御幸福と共に社頭の股賑を図っております。



宏大無辺なる稲荷の神様の御加護を頂く日々をお過ごしになるよう「祈願提灯」の奉納をお勧め致します。

祈願提灯初穂料
一灯 一年間 五千元

甲府伊勢講「あんない

東北2泊3日の旅

真赤に染まった紅葉を追って東北へ!!

(弘前八幡宮参拝とねぶたの里、奥入瀬、十和田湖、弘前恐山……) 定員に限りがありますので、お早めに伊勢講世話人様又は神社社務所までお申込みお問合せ下さい。

旅行実施
平成六年十月二十三日(日)

御旅行代金 二十五日(火)三日間
おひとり 七九八〇〇円
募集人員 九〇名様

10月23日(日)	甲府	中央道・首都高速	東京	JAS	青森	ねぶたの里(昼食)
	4:00頃		6:30 7:30	8:40 9:20	10:00	11:30
	八甲田	奥入瀬溪流散策	子ノ口	十和田湖遊覧船	休屋	
		13:15	14:00	14:30	15:30	
	乙女の像	十和田湖畔(泊)				
		16:00				
10月24日(月)	十和田湖	発荷峠展望台	弘前城(昼食)	弘前八幡宮正式参拝		
	8:30	9:00	11:00	12:15	12:20	13:15
	蟹田	脇野沢	薬研温泉(泊)			
		7:00	18:30			
10月25日(火)	薬研温泉	恐山	野辺地(昼食)	三沢	JAS	東京
	9:00	9:30	10:30	12:45	14:15 15:10	16:30 17:15
	甲府					
	20:00頃					

